

# あいら若者まちづくり会議

## 第2回 テーマ若者目線で見ると始良市の観光

令和5年8月23日 開催

### 【お題①】

「あなたにとって“観光地”のイメージはどのようなものですか？」

楽しいと思える所、景色のいい所、何度も行きたいと思える所です。(蒲生高校生)

自然が豊かな場所、人の住みやすい場所です。(龍桜高校生)

家族で楽しめるアトラクションがあり、家族が楽しめるような場所です。  
(加治木工業高校生)

自然の豊かさを感じられるところ、その地域の雰囲気などを体を持って感じられるところ。  
(加治木高校生)

PR することを何か一つに絞ることです。始良市にも、何か一つ「これ」といった所があると、観光地としていいのではないかと思います。(加治木高校生)

その地域の独特の雰囲気に観光者が溶け込めるようなものが観光地には必要なのではないかと思います。  
(蒲生高校生)

まず一つ目が、SNS で多く取り上げられる場所だと思います。今の時代、SNS で取り上げられるということは影響力を持っていて、県外や海外の方々にもお伝えする事ができるかもしれないので、そういう所が観光地になっていると思います。

もう一つは、訪れてから帰るまで、全ての日程を始良市内で楽しむことが重要だと思っています。食、景色、アトラクション・ショッピング等を楽しんで、宿泊も始良市で済ますことができると、観光地としてのイメージがついてくるのかなと思います。

(鹿児島高専生)



皆さんの観光地に対するイメージというのがわかりました。例えば京都には、歴史の縦軸と観光地として整備されていることの横軸があり、それが日本を代表する観光地になっているんだと思います。観光というのはその地に「行ってみたい」と思わせる何かが必要だと思います。

鹿児島県の桜島、霧島の温泉を他県の人たちは見たい、体験したいと思います。始良市には蒲生の大楠、龍門滝、重富海岸があります。その地域のブランドが非常に大事になってくると思います。そのブランドは、自分たちで作ることもできるし、周りが作ってくれる場合もありますが、その土地に住む人が「来てみて」と呼びかけたり、自分たちで友達を連れていく方法が、地道ではあるけれど、確実なのかなと思います。



湯元市長

街に誇れるものを育てていくこと、観光地としてしかけを作っていくこと、このまちの優れたものをどうブラッシュアップしてしかけていくことで、もっと良くなっていくのかということかと思っています。

最近は「映え」という言葉もあります。若い世代の人たちの情報発信力はすごくて、SNS で取り上げられることで知ってもらい、訪れて、感想を持ってもらって、もう一度訪れるという、リピーターとなってもらうことも、大変大事な仕掛けではないかと思います。



石田尾教授

観光地といえば、文化・歴史・自然がメインになると思いますが、文化や歴史、自然を若者までどう伝えていくか、というしかけ、例えばおもてなしの品が観光地にあるような、観光地そのものだけではなく、付け加えるものがあるといいと思います。

(加治木高校生)



おもてなしというのは大事なことですよね。訪れた人をきちんとお迎えすることになりますし、最近は「おもてなし」という言葉が世界の言葉になっていますけれど、来ていただいて物を見てもらうだけではなく、その街の人々や物や文化、情報と関わりを持つことが大事ですよね。色々な交流の中に新しい観光の磁場というものができてくるのではないかと思います。



石田尾教授

自然や環境や歴史、文化があるところにストーリー性、物語がほしい訳です。なぜこの文化があるのかという物語が素敵だったり、なぜこの地形があるのかという何千年前の話が今でも残っていたりして、それを見に行きたい、感じたいということが必要なんだと思います。

蒲生の武家門通りを含めた日本遺産が盛り上がっていますが、皆さん行ったことがありますか？9つの要素で、「日本の武士が過ごした麓」ということでストーリーが作られています。「ここを何百年前に武士が歩いていた、みんなが生活していた。」「どんな格好で、どんな気持ちで歩いていたんだろう？」と感じながらそこを歩くストーリー性を作っていくのが一つだと思います。

火山を皆さん見に行きますが、ジオ、いわゆる地球が作ったものを見に行きたい、というのは、何千年もの歴史の中で自分たちが生きていなかったときのものを感じたいということで、そう思えるものが観光資源としてあると、すごく強みだと思います。ジオについても始良市にはいっぱいあるんです。例えば住吉池は、火山ガスが噴出したあとの「マール(火山地形の一つ)」といいます。そういったものを発信していきたいと思います。



湯元市長

## 【お題②】

「市内でおすすめの“映えスポット”があれば教えてください(場所、食べ物、など)。」

夜、友達と白銀坂を登ったときに、始良市の夜景が一望できるし、登る過程も楽しいし、夜景も思った以上にきれいで、「映える」と思いました。(加治木高校生)

重富海岸は、海に続く砂浜が結構広く、歩くことができます。夏になったら海にも入れるので、「夏」に「海」というだけでも「映える」と思います。また、先ほどの意見の「夜景」つながりで言うと、加治木花火大会の夜は、小さいけれど重富海岸でも花火が見えるのですが、その時に海面に花火が反映して「映える」と思いました。(蒲生高校生)

お正月時期の重富海岸に行くことがあったのですが、桜島の横から上る初日の出がとてもきれいなものでした。そして、初日の出ができるお正月というのは、年末年始で県外から帰省している方もいるので、ただ場所を映えスポットとして指定するよりは、「この時期の、この時間帯に行くときれいですよ」というように、場所、時間帯、季節というところまで指定して発信していけたらいいのではないかと思いました。

(鹿児島高専生)



重富海岸は映えるだけでなく、海の生き物を展示する施設があり、海の生き物とも触れ合え、海の生き物に関する事を発信している方々もいらっしゃるので、映えスポット以外でも楽しめると思います。  
(龍桜高校生)

映えスポットを広める手段として、ドラマ主演の芸能人や有名人が SNS で発信すると、たくさんの人が見るので、芸能人や有名人に来てもらうことも大事かと思います。  
(加治木高校生)

授業で蒲生の大楠の落ち葉を使って押し花を作ったり、蒲生の和紙を使って香り袋を作ったりしたので、映えスポットにはなくても、その土地の物としては、いいのかなと思います。  
(蒲生高校生)

学校の近くにかもだ思い通りがあるのですが、そこに「かも茶」というタピオカの店があって、学校帰りや休日に行きますが、「映える」ものとしては、いいのではないかと思います。  
(加治木高校生)



重富海岸の話ばかりになりますが、重富海岸は、国立公園です。国も認めている公園の一つとして、松原と砂浜のある美しいところです。私は東京に長くいたんですが、1月のカレンダーの写真で「重富海岸から見た桜島」を見たときに、東京の人は、これを桜島だと認識できなかったんです。桜島といえば、鹿児島市の城山から見た、都市と融合したあの形が日本全国のイメージとなっているんです。だけど、重富海岸から見た桜島は、すごくきれいじゃないですか。皆さんは見たことがあるけれど、あまり知られていない、そのギャップを埋めなければいけないと思っています。

他に龍門司坂もありますが、何回も大河ドラマのロケに使われたロケ地です。ロケ地を回る人達もいらっしゃるので、龍門司坂にくる人もたくさんいると思いますが、そこで、どの季節がいいのか、どういった日時がいいのか、というような発信の仕方もあるんだなと思いました。皆さんが日頃見ているものを、どのように「素晴らしいよ」と言ってもらえるのか、それが SNS (Instagram や twitter) という手段で発信するということでもあるのかなと思いました。



湯元市長

### 【お題③】

「あなたは市でどのようなイベントがあったら行きたいと思いますか？」

韓国の梨泰院(イテウォン)に行ったのですが、ハロウィンになると、皆が仮装をして出かけます。路上に屋台が出て、いつもはないメニューを出したりして賑わうので、始良市でもハロウィンイベントをしたらいいのではないかと思います。

(加治木高校生)

始良市にはきれいな自然や景色、食もあります。県外の親戚は「鹿児島に帰ってきたい、おいしいものを食べたい。」と言います。「映え」とか簡単な言葉では片づけられないくらい、美しいものがあるので、大切にしたいと思います。「映え」という言葉から切り離して、ゆっくり自然の中で過ごしたいです。発信するためのお祭り騒ぎではなく、静かな美しさを表現するのも、新しい視点で大事なのかなと思いました。

(鹿児島高専生)



イベントには多様な選択肢があって、それを私たちが支持し、サポートすることがとても大事なことだと思いました。観光地の作られたイメージというものもありますが、始良市は素晴らしい自然に恵まれています。ふるさとを離れている人の、かつての自然豊かなふるさとを大事に守ってもらいたいという思いにもつながっていくんだろうと思います。



石田尾教授

始良市近辺にはたくさんの学校があります。普通科以外の色々な種類の学校があることが魅力だと思うので、高校生が一つになって祭りをしたらいいのではないかと思います。龍桜高校にしかできない医療系のデモンストレーションや、鹿児島高専のものづくり等体験コーナーをしたり、加治木高校は吹奏楽部がすごいと思うので、コンサートを開いたり、各学校の特徴を活かしたイベントをすると、幅広い世代の方に楽しんでもらえると思います。

(加治木高校生)



ぜひ皆さんが実行委員会になっていただいて、高校生プロデュースのフェスを開いてください。全国の高校生が集まるイベントのインターハイのようなものが始良市で開かれれば、全国から高校生が集まっておもしろいと思います。皆さんの若い発想で盛り上げていただくのは、非常にいいなと思っています。

イベントの魅力や面白さという点では、有名人が来るから見に行きたいというイベントもあります。また、阿波踊りやねぶた祭りのような、昔から続くお祭りもありますが、なぜ続けているかという、皆が参加したい、見たいと思うからだと私は思います。そういうお祭りやイベントをどういうふうに始良市でするのかというのを今から作っていかなければならない、と思います。

イベントに対して、来場者数や、経済効果を求められます。純粹ではないかもしれませんが、でもそういうものを狙うイベントも大事だと私は思います。例えば「薩摩おいどんカップ」は野球に特化したイベントですが、報道によると、6億の経済効果と言われるくらい、目新しく、無料で観られて、野球ファンにはたまらないイベント、野球を始めようとする子供たちにとっても良かったというようなイベントを、継続してやっていくのが大事だと思います。

もし高校生のフェスをするなら、毎年続けて、「高校生のフェス、始良にあり」と定着してほしいと思います。ねぶた祭りは青森県、阿波踊りは徳島県であるというのは、行ったことがない人も知っています。長く続くイベントにはそれだけの力があり、街のイメージアップにつながると思います。蒲生のどんと祭りは30年やっています。続けられるイベントは続けていって、「始良市にはこのイベントがあるから、ぜひ行きたい」と言われるようにしていきたいと思います。



湯元市長

イベントは始めることは簡単だけれど、続けることが大事ということかと思いますが、それでも最初のスタートがなければ物事は動いていかないわけですが、では、具体的に、始良市にどんなイベントがあれば、皆さんは参加したいのかということをお聞きしたいと思いますが、いかがですか。



石田尾教授

私はスポーツイベントを開けるといいと思っています。始良市ビーラインスポーツパークにサッカーグラウンドができあがり、野球の施設も整えられていると思います。自分が小学生の時に、鹿児島ユナイテッドの試合がビーラインスポーツパークで行われた際、対戦相手は大阪のチームだったのですが、私は賑やかなのが好きなので、鹿児島ユナイテッドのサポーターの中に入って行って、一緒に応援して楽しむことができました。試合後に大阪のサポーターの方々と交流があって、始良市の美味しいものや見た方がいいものを聞いていただいたのが良かったと思います。この経験から、スポーツイベントを開催することで、県外の方々が始良市に来て、その地域のものを知ろうとするという効果があると思いました。

今年度は鹿児島国体が開催されるので、それを利用するのもいいと思いますし、鹿児島ユナイテッドがJリーグに参入したことで、始良市での試合は難しいと思いますが、サッカー以外であっても、例えば私は鹿児島高専のバドミントン部に所属し、全国高専大会に向けて頑張っていますが、5、6年ほど前に全国高専大会が霧島市で開催されたときに、霧島市として大会を盛り上げて頂きました。

去年で言うと加治木工業高校のラグビー部がインターハイに出場しましたし、加治木高校の山岳部は鹿児島県内で何度も優勝しています。始良市内の高校の部活動が、ビーラインスポーツパーク等で開かれる大会で試合をするときに、市でもっと宣伝等していただければ、その高校の部活動を頑張っている人達をもっと頑張ろうという気になれたり、大舞台で活躍する中で、始良市を紹介できたり、いい効果があるのではないかと思います。

(鹿児島高専生)



スポーツというのは、イメージアップにつながる強力な素材です。

皆さんの学校が全国大会で活躍するとか、ビーラインスポーツパークで様々な全国大会が開かれるというのは、何のイベントよりも集客数もあるし、全国に発信できる一つの大きな素材だと思っています。

始良市ではスポーツに力を入れていこうとしています。先ほどは野球に特化したイベントでしたけれども、国体、サイクリング、バスケットボールではレブナイズとの連携等々、スポーツ大会を始良市で開催してほしいと思っています。スポーツ関係者によると、始良市は空港に近く、鹿児島市の隣にあるということで、全国大会や九州大会、鹿児島県大会を開きやすい所にあるということです。それをアピールしていくのが私たち市役所の役割ですので、そういった大会を多く呼んで、そしてトップレベルの大会を観るというのは、子供たちを含め皆さんにとっても非日常というか、刺激になると思うので、そのような大会を通して始良市に誇りを持ってもらえると非常に嬉しいと思います。また、皆さんの学校が全国で活躍するときには、時間の許す限り、応援しに行こうと思っています。



湯元市長

市長がおっしゃっていた「重富海岸から見た桜島は桜島とはわからない」というような、有名ではない景色の写真や絵のコンテスト等を開催して、その様子をメディアで公開したら、その風景を見たいと思う人が始良市に対して興味を持ってくれるのではないかと思います。  
(鹿児島高専生)



「観光地の掘り出し物を絵で描く」ということですね。

観光やイベントには色々な方法があるので、色々なアイデアを試して、トライ&エラーでやってみれば良いと思います。そういうことを日本全国の各市町村でやっていると思います。例えば、「ゆるキャラ」というのがありました。ひこにゃんが有名になりましたが、現在彦根市は、ゆるキャラのステップから、違うステップに上がりました。熊本市のくまモンは、ずっと人気を博して色々な企業やスポーツとコラボして、ゆるキャラの世界でステップアップしています。そういう、0から1にしたものを、100にするには、色々な方法があると思います。

観光は「言ったもの勝ち」の世界でもあるんです。他がいなければ、「私たちが『日本一』『世界一』』という言い方も、一つのキャッチコピーとしてあるんです。私が就任してから始めた「煮しめグランプリ」というのがあります。煮しめは鹿児島県でどの土地にもあるけれど、始良市が元祖なんだという形でグランプリをやっているんです。どこの土地にもあるものなんだけれど、「煮しめと言ったら始良市でよくやっているよね」と皆さんが思ってくれるようなやり方があって、それを続けていこうと思っています。

始良市に来てほしい、知ってほしい、という目的に対する方法を、私たちも考えますし、皆さんも若い発想でぜひ考えてほしいと思います。皆さんが行動する中で「どうしたら面白いことができるかな」「それを続けられるかな」ということを考えてもらって、アイデアを頂ければと思います。アナログ、デジタルどのような方法でもいいんです。それをやってみて、続けることだと私は思います。



湯元市長

先ほど意見が出たように、私も落ち着きのある、きれいなイベントが必要だと思っています。サマーナイトや霧島国分のお祭りに何度か行ったのですが、人が多くて、落ち着く時間もなくて、屋台で買って、花火を観て、人に揉まれながら帰るといったような、夏祭りだけど、体は疲れるということがありました。

愛宕神社の六月灯の灯籠を見たのですが、とてもきれいで、このきれいな面に焦点をおいたお祭りがもういくつかあったら、心安らぐようなイベントも増えるのではないかと思います。  
(蒲生高校生)







湯元市長

観光という視点でお祭りを考えると、どういうお祭りに行きたいか、という選択ができるくらいの種類があるといいと思います。汗をかいて跳ねて皆が一体となった中で、共有感があって楽しかったね、となるのか、静かな神社の前で灯籠を見ながらきれいと感じること等、様々な幅があるので、色々な方法があるんだろうなと思います。愛宕神社のお祭りも、手作りだけど、イベントとして成立している。「祭り」というと、盛り上がりなことばかり思うんだけど、静かに時間が過ぎていくのもいいことなんだと今の意見で気づきました。

お祭りやイベントをするにあたって、交通手段が大事だと思います。始良市は交通手段が限られていて、タクシーやバスを利用しないと参加できないことも多いので、イベントの時にバスを増やしてほしいです。

また、そのバスで有名なところを巡ったりするのもいいと思います。

小学校6年の頃に鹿児島市内を巡る学習をした際、鹿児島市のシティビューを利用して、西郷さんが自決した場所など見に行ったのですが、有名な場所のそばにバスが停まってくれて、回りがやすかったです。小学校6年生が5、6人で行動する場合でもわかりやすいバス停でした。

バスがあった方が訪れる人も多くなると思いますし、イベントに参加したくても、交通手段がないと行き方がわからないということがあるので、まず交通手段を増やして、その後バスで巡ることができるようなになればいいと思います。 (龍桜高校生)



湯元市長

高校生や中学生は自分で車を運転できないので、そこに行くための利便性というのは必要だと思います。そこについては、イベント・お祭りを実施するごとに私たちも駐車場のことは考えるんですが、友達同士で行く場合はバスか電車ですよね。高校生がどう参加するかもしっかりと念頭に入れていかなければいけないと思います。

始良市の花火大会に行ったのですが、サマーナイト花火大会には行けなかったのが、友人から動画を見せてもらいました。サマーナイト花火大会では最新の技術を使ったお祭りだったので、来年もあったら行きたいなと思います。島津義弘公の歴史を絡めたようなお祭りもいいと思いますが、始良市に最新技術を絡めたお祭りがあっていいと思いました。 (加治木工業高校生)





湯元市長

実は去年、始良市花火大会でもドローンを使っているんです。大人の事情が毎年あって、そこができるかどうか、毎年実行委員会の努力でやっています。

始良市花火大会の中で、どう成長していくか、ということ「来年これやろう」「サマーナイトでやっていたあれやろうよ」というように毎年続けていけば、継承が出来ると思うので、来年はまた期待したいと思っています。

始良市花火大会では臨時電車を出してもらったり、JRさんにそれを交渉したり、という努力はしているんですけども、「サマーナイトに負けないぞ、追い越すぞ」という気概でやっていると思いますので、どんどん成長すると思うので、楽しみにしてください。また、皆さんから意見を言っていただくと、成長につながるかもしれないです。

スポーツの話になるんですが、有名人のトークショーをもっとした方がいいと思います。始良市で言えば川崎宗則選手がいます。そういうすごい選手のトークショーをすることで、ファンの方達がたくさん来られるのではないかと思います。（加治木工業高校生）



始良市出身の有名人は結構いらっしゃいます。川崎選手は大リーガーにまでなった選手で、野球をしていない人も知っている方だと思います。2月にあった「おいどんカップ」では、アンバサダーになっていただき、野球教室やファンとの触れ合い等も行ってもらいました。始良市のふるさと大使でもあるので、そういった所でも力を発揮してほしいと思います。

歌手でも俳優でもミュージシャンでも、一人でも多くの有名人が始良市から出てほしいと思います。皆さんぜひ頑張ってください。有名人になってください。そして小さい子供が憧れるような、色々な分野で活躍してもらいたいと思います。その時は始良市に呼びますから、ぜひ来て下さい。



湯元市長

「あいら」というのは、「あい」という文字が入って可愛いというか、親しみやすい良い地名だと思います。

また、「静かな祭りがいい」という人や、サマーナイトのような「忙しい雰囲気だけど、その雰囲気が好き」という人もいます。

この二つを組み合わせ、始良市に色々な地域がある中で、色々な人が楽しめるような祭りを、「私たちの愛する地域」ということで、同時開催で行えるといいのではないかと思います。

「人を愛する」というテーマで始良市花火大会、「自然を愛する」というテーマで地域の祭りなど、個々の祭りを色々な地域でしていくと、満遍なく回ってもらえるかもしれないし、バス等を運用すると、私たちの地域の祭りを鹿児島の中だけでなく県外からも観に来てくれるのではないかと思います。（加治木工業高校生）





湯元市長

おっしゃる通り、「あいら」というのはキーワードにしやすい名前なんです。キーワードで括って何か一つのを各地ですというのは非常にいいアイデアだと思います。「始良」という文字を県外の人には読めないことが多いのですが、それもまた楽しいじゃないですか。それをギャップとして、活用できればいいのかもしれない。

地名を愛していただけるというのは、いいことだと思いますので、そのことを進めていければいいなと思います。



石田尾教授

今日は皆さんの素晴らしい意見を聞く事ができました。

本日は観光を切り口にしましたが、その街に訪れなければ、味わい、体験することができないような、景観だけではなくて、その街の人と出会うことが大事だと思います。始良市の新たな、おもてなし計画というのを行政でも考えているわけですが、若い人たちからの様々な意見やアイデアを活かすのも行政の大事な役割ですから、私も楽しみに皆さんのご意見をお伺いすることでした。この街に住んでいる皆さん自身が情報発信をしていただくということ、それから自分の地域の良さを認め合うということ、情報・価値を共有することが大事ではないかということ、皆さんの意見を聞いて感じたところでした。

最後に市長から総括としてご意見を頂ければと思います。



湯元市長

始良市は合併してまだ 13 年しか経っていないんです。まだまだ成長しなければいけない。私たち大人がやりきれないこと、皆さんたちの世代が作っていくことが多く残されています。皆さんが卒業して社会人になって世の中を動かす年代になっても、始良市はまだまだ伸びしろがあると思います。ですので、今の若い気持ちを忘れずに、始良市がどうやったら成熟して成長していけるのかということ、観光の面でも生活の色々な面でも、皆さんの力が必要です。他の市に比べて始良市が一番合併が遅かったのですが、だからこそ、若い人たちの意見が必要で、それが一番反映できる市であります。皆さんたちの力の必要性を感じています。私たちも様々な場面で皆さんの意見を吸収する努力をしますので、皆さんからも意見を頂けたらと思います。

今日は本当に長い時間ありがとうございました。